

前回(6月12日第3回)の会議で提示した“具体的な取り組み”の進捗状況

目標

1. 高校へ自宅通学したい子どもが、白川町・東白川村で暮らし続けられるようにすること。
2. 自動車が運転できなくなっても移動の手段があること（免許返納しても暮らし続けられるようにすること）
3. 白川口駅に降りた来訪者が、交通機関がなくてどこにも行けない現状を解消すること。

具体的な取り組み内容

① 事業者が分担して受け持つことで、運休・減便を解消する。

白川線・黒川線……濃飛バスを想定

期待する効果 ⇒ 土日運行の再開、利用ニーズに沿った柔軟な運行ダイヤ・増便
加子母への延伸、地域内公共交通との組み合わせで利便性向上

佐見線・蘇原線……白川タクシーを想定 ※乗合事業の許可を受ける必要あり

期待する効果 ⇒ 土日運行の再開、4～9人乗り車両による柔軟で効率的な運行
地域内公共交通との組み合わせで利便性向上、飛騨方面への接続

事業者の対応状況	濃飛バスからの提案 ・当面は美濃白川営業所の体制（運転手4人、運行管理者1人）でできる範囲の運行を行う。
	白川タクシーからの提案 ・旅客自動車運送業でなく、市町村運営有償運送（交通空白輸送）で運行業務を受託 ・車両（10人乗・7人乗）は町が貸与、運転士は白川タクシーで雇用 ・登下校時間帯は定時定路線、昼間はデマンドバス ・合わせて小中学校スクールバス運行業務を受託し、朝の高校生通学にバスを利用 ・19時台運行可（パートで対応） ・白川地区、黒川地区も受託希望あり＝事業体一本化により運行管理経費を削減
方針	今回の協議会で運行方法の概要として、方針を示した。 この方針について、事業者と調整を実施する。

② 地域内公共交通のしくみをつくる。 現状では、東白川村福祉有償運送のみ

バス路線から離れた地域の公共交通ネットワークを整備する。

東白川村……現行システムの更なる充実、又は新しい運行形態の検討

白川地区・蘇原地区・黒川地区……地域のことを地域で考え実行（実証運行）できる組織（＝公共交通地域部会）を早急に立ち上げ、地域の利用者が望む公共交通のありかたを見つける必要がある。

白北地区・佐見地区……実証運行により、行先や時間のニーズ、利用者数、必要量等を把握し、地域で使いやすい公共交通を創出し、有償運送を目指す。

検討すべき事項 ⇒ 有償運送の事業者（安全安心・持続可能な運行体制）をどう確保するか？

- ↓
- ①地域で事業体（NPO等）を設立 ※課題は運行管理体制
 - ②緑ナンバー事業者に委任
 - ③緑ナンバー事業者の運行管理の下で白ナンバー営業 など

進捗	白北地区・黒川地区・佐見地区では、地域部会で運転手を確保し実証運行実施中（有償運転資格者講習を受講 22人が資格を取得） 蘇原地区は集落支援員が提案した運行方法で実証中（集落支援員が運転） 白川地区はモデル地区を設定して10月から実証開始 東白川村は福祉有償運送を継続中。その他の地域内公共交通の検討はこれから。
課題	佐見地区は、地域部会を事業主体とした本格運行も視野に入れている。 白北・黒川地区は、有償運送に向けて有資格者を確保した。 白川・蘇原地区は、当初から本格運行は旅客運送事業者が行うものと考えている。 市町村運営有償運送で実施する場合、事業主体は町村。運行業務を地域部会として受託するか、白川タクシー傘下でパート運転士となるか。運行管理体制は確保できるか。 地域部会（任意組織）で運営するにはエリアが広すぎるのでは。NPO化の検討必要では。

③ 乗りやすい運賃の導入

路線バス現行運賃は長距離でかなり高額（佐見線:1,440円、白川線:1,210円、黒川線:1,060円）になるため、乗りやすい運賃を導入する。 ※可能であれば平成30年4月～

- 上限運賃化（例：1乗車につき上限500円）
又はゾーン制（例：同一地区内一律200円で隣接地区に入ると200円加算）
- 全線定期券の販売（年額〇万円の定期券で、全路線何回でも乗車できる）
 - ・全線定期購入者には、特典を付ける。
 - ⇒ 例1：地域内公共交通と共通利用できる。 例2：タクシー割引がある。
 - 例3：家族で使える。
 - ・高校生も同一金額で購入してもらい、別途補助制度で負担が増えないよう配慮する。

進捗	具体的な検討はこれから
課題	導入時期 新システム運用開始の10月1日とするか、年度始めの4月1日とするか？ 運賃設定、上限運賃、ゾーン制、全線定期券など、早期にたたき台を

④ 19時台以降のJRに接続するバス（乗合タクシー）の導入

- 現行の終バス（駅発）以降に、JRで帰ってくる高校生等の足を確保する。
- 運転手拘束時間の関係で4方向一斉発車できない場合は、1車で2路線受け持ち、後発組は楽集館等を待合所にするなど工夫が必要
 - 検討すべき事項 ⇒ 何時台まで必要か？ 待合施設の協力は得られるか？
 - 早朝（6時台のJR）の対応は？ 土日も必要か？

進捗	19時台は白川タクシーが対応可能と回答（10人乗りによる運行）
課題	20時以降もパート運転士で対応可能であるが、どこまで公で見ろべきか？ ニーズと経費のバランスの問題 当面の目標は19時台の絶対確保 20時台、21時台への対応のしかた

⑤ スクールバス・福祉バス活用の検討

- 佐見地区・蘇原地区を乗合タクシー化（小型化）することで10人以上乗れない場合を想定し、スクールバスの活用を検討（佐見線の保育園利用等）
- スクールバス業務を直営から委託に切り替えることの検討（白川町）

進捗	白川町のスクールバス（6台）を直営から委託に切り替える方向で教育委員会と協議開始 高校生通学、保育園通園への活用も想定 社協マイクロバスを予備車両登録することの承諾 白川タクシーからスクールバス運行業務の受託希望あり
要確認	現行スクールバス運転手の意向確認・面談（白川町） 目的外利用に関する県等への確認 混乗・有償の可否確認

⑥ 担い手（運転手）の確保・事業者の支援

- 運転手不足（濃飛バス4人、白川タクシー1人）解消に向け、担い手確保を支援
- 白川タクシー(株)の運行管理体制の整備を支援（白川町）
- 経営安定化のため多機能化（客貨混載、代行・輸送サービス）を事業者と共に検討

進捗	大型二種免許取得補助金による資格取得（1人） 有償運転資格者講習受講料を公費負担（22人） 町有建物（元JA和泉支店＝空き店舗）を白川タクシー(株)の事務所として貸与 集落支援員が運行管理体制整備を支援（地域支援と兼務） ドライバーズバンクで担い手募集→応募あり（5人） 東白川村HPでスクールバス運転手募集→県外からも応募あり（移住希望）
課題	現時点で白川タクシーの雇用は0人 事業内容・事業者が確定しないと、必要な雇用人数が決まらず募集しづらい。

⑦ 公共交通に乗ってもらう・支えてもらうための地域の意識向上

- 高齢者・高校生の利用促進のため、懇談会等で対話の機会を増やす。
- 地域部会等の活動により、公共交通を地域で支える意識の醸成を図る。

進捗	地域部会が集落座談会開催（白北）、サロンで高齢者へ周知（白川） 町と地域部会が協働で高校生保護者懇談会開催（黒川・佐見）
課題	高齢者や高校生の“生の声”を聞く。⇒乗客から直接ヒアリング 利用者の声を地域部会が集約し、システムの改善に反映していく仕組み作り 利用者以外（将来の利用者）の理解と協力 地域部会役員のモチベーション維持 （現行役員の熱い想いと使命感が、次の役員にも継承されるように）